

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第26号

ななえ古写真物語

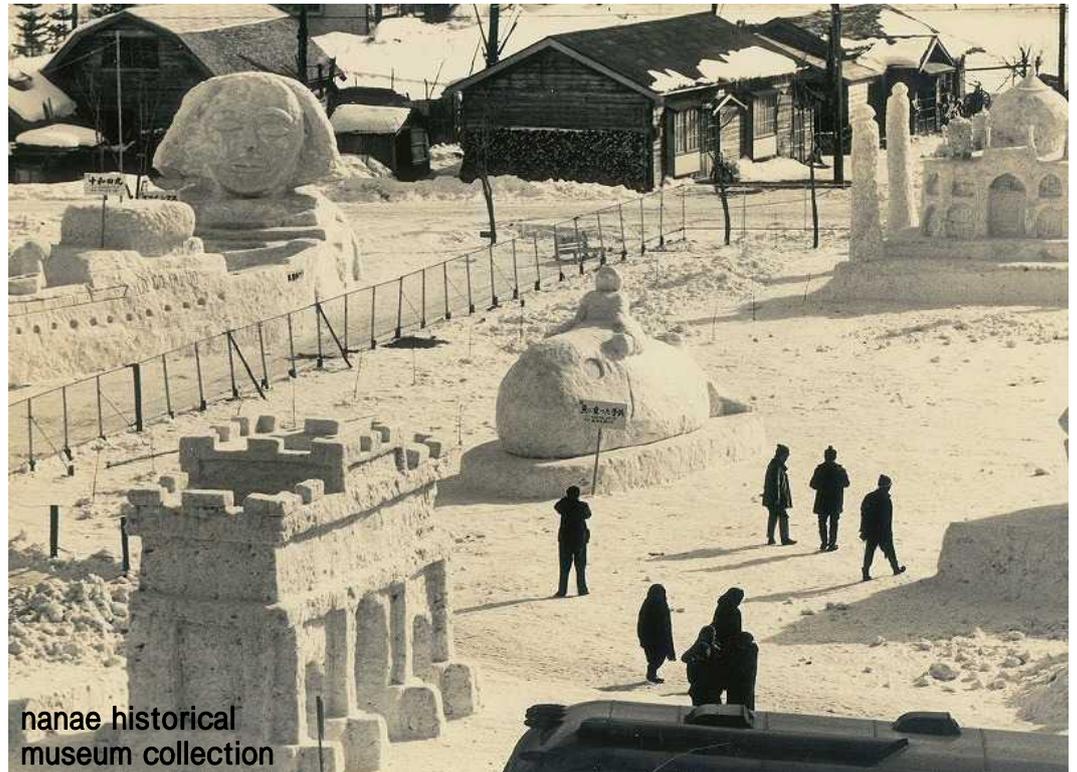
VOL. 26

幻の雪祭り

～雪と氷の祭典～

昭和38年

大沼国定公園付近



北海道では、各地で行われる雪祭りが、ある意味、冬の風物詩といえると思う。札幌市で開催される雪祭りは全国的にも知られるところだが、七飯町でも2月6日・7日にわたって第44回大沼函館雪と氷の祭典が開催された。会場には、約20基の雪像や氷の滑り台が設置され、来場者を楽しませたほか、冬の味覚市、歌謡ショーも開催されるなど、賑わった2日間になったようだ。

大沼で行われる雪と氷の祭典の歴史については、大沼観光協会発行の「大沼観光事典」によると、昭和40年に、第1回雪祭りが開催されたと記されている。この時は、函館棒二デパートと大沼国定公園を会場にし、雪像づくりには陸上自衛隊函館駐屯部隊も参加したといえます。当時の新聞記事を見ると、大沼会場には、「西遊記」や「アラジンと魔法のランプ」を題材にした大型の雪像が登場。札幌の作品より芸が細かいと感嘆されたという。また、この雪祭りでは、両会場で数万人もの見物客で賑わったと記録されている。

大沼の雪祭りは、昭和47年から49年の間はオイルショックや雪不足のため中止になったりもしましたが、現在まで続いています。

さて、当館には雪祭りの様子を写した古い写真がたくさんあります。上の写真がその中の1枚ですが、実はこの写真は、前述の函館・大沼雪と氷の祭典が開催される2年前にあたる昭和38年に写されたものです。なので、この写真に写されてる様子は、七飯町で行われた大々的な雪祭りのさきがけになるのかもしれませんが。

この雪祭りを企画したのは昭和36年から大沼で営業を開始した大沼ヘルスセンターというホテルで、札幌の雪まつりに習って大沼でも雪祭りを開こうと計画し「第1回 雪と氷の祭典」という名で開催したものです。経費などは、ヘルスセンターが負担し、前庭に小中学校や観光協会、自衛隊の協力を得て雪像などを設置したといえます。しかし、ヘルスセンター主催で、第2回 雪と氷の祭典が開催されることがなく、代わりとなる形で、昭和40年から函館大沼雪と氷の祭典が開催されることになり、ヘルスセンター主催の雪祭りは、幻となってしまったのです。

雪が舞い降りる大沼国定公園の歴史に、ノスタルジックな彩りをそえる幻の雪祭りの紹介でした。

13日

夜の博物館後期講座第2回目は「建造物にみる明治期のななえ」と題し、北海道立文書館所蔵の資料を紹介しながらの講座でした。

七重官園家畜房の見取り図がスクリーンに映し出されると、受講者の皆さんから「人はどこから入って世話をしていたの?」「この部屋には何頭ずつ入っていたの?」など次々に質問が飛び交い、興味深い講座となったようです。



熱心に見入る受講者

難しいけど面白い!



大きい雪像を作るぞー



一番最初に完成!



30日

今月は、かんじき作りと雪像作りに挑戦しました。かんじきとは、昔から日本で使われてきた、雪の上を歩く道具です。まずは、あらかじめお湯で煮て丸く曲げた竹に、テープを巻いて形を固定します。次に、ひもを結んで足を乗せる部分を作りました。固めのひもと結び方に苦戦している様子でしたが、友の会の方達に教えてもらいながら作業を進め、約2時間半かけて完成しました。

午後からは、各班に分かれて雪像作りをしました。コンテナに雪をつめて型どり、それをたくさん積み上げたものを、スコップで削りながら仕上げました。寒い中、皆一生けん命作っていました。おつかれさまです。

31日

ふぁみりーでいみゅーじあむでは、恵方巻きを作りました。具材となるほうれん草に味をつけたり、玉子焼きを焼きました。玉子焼きは数回にわけ、重ねて焼いていくので「難しい!」という声が上がっていました。

具材の準備ができたなら、のりに広げた酢飯の上のせていきます。並べ方やのせる量は、ひとつとして同じものはなく、子ども達のこだわりが見えました。

最後に、すだれの様な形の「巻きす」でくるくる巻いて完成!皆で今年の恵方である西南西に向かって食べました。毎回好評の絵本の読み聞かせではいろいろな鬼が登場する絵本を読んでもらいました。怖い鬼のイメージが変わったかな?

上手に焼けますように!



どんな風に並べようかな?



大きいけどおいしい



3月の予定

1	月
2	火
3	水 夜の博物館 ひな祭り
4	木
5	金
6	土 パネル展OPEN
7	日 冬の探鳥会
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土 ジュニア探検クラブ
21	日
22	月 春分の日
23	火
24	水
25	木 パネル展CLOSE
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火
31	水

3月の休館日はありません。

ひな人形を飾っています!

よるずの会の皆さんが、明治、昭和初期、中期のひな人形と、つるしびなを常設展示室に飾ってくれました。時代によって変化するひな人形をお楽しみ下さい。(A)



編集後記 ~tawagoto~

今年の冬は雪が多い!当館は建物の構造上、屋根の雪が大量に落ち、油断すると軒下に積もった雪が尾根を築くほどたまり、事務室の窓ガラスを割ってしまいそうになる。そうならないためにも、職員が一日がかりで雪かきをする。今年はすでに、この作業を2回行った・・・ここ何年かで最も多い回数だ。そして、この文章を書いている今も、3回目の雪かきへ向け、静かに、そして着々と雪が積もりつつある・・・おそろしや・・・(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~ 第26号

平成22年2月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp